

平成27年度 学校法人 三幸学園 東京スイーツ&カフェ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：校長 高田幸一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 中島 誠

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 重点施策振り返り

- ・退学率低減の数値目標を設定し取り組む。(1年 10.7 %: / 2年 3.4 %: 合計: 7.0%以内が目標)
→留学生の退学。就職や2年次への進級目的の維持を踏まえて在校生の縦・横のつながりを促進する。
- ・目指す人物育成像を目指した教育の徹底
→色々と取り組みは出来た。(掃除・挨拶運動など)。がしかし効果が出るまでには至らず。
- ・企業並びに地域連携の促進
→地域や企業から見た本校の認知度、貢献活動の向上を目指すも飽和状態となってしまう、業務過多が懸念された。
- ・卒業生との繋がり強化
→十分な結果を残すことができなかった。引き続きつながる活動や施策を実施しなければならない。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・新たな施策も含めて、退学率の防止に関していろいろ取り組まれている。
- ・企業でも早期退職率が上がっている、初期の本人ビジョンと現実との違いでモチベーションを下げる。顧客から提供者への転換をいかにさせるかが重要である。
- ・企業も人材育成には悩みを抱えている。
- ・企業・地域連携は新たなリノベーションを創生する。インターンも含めて外部での教育の機会を増やすことが望ましい。
- ・飲食業界の通例と現代の生徒とのギャップをうまく埋める必要がある。一辺倒の指導ではいけない。
- ・卒業生とのつながりに関しては、今後促進を図ることで、学校⇄卒業生⇄企業の良い関係性を築くことにもなり、離職の防止にもつながるのではないかと。
- ・ネットや写真でイメージして来た生徒に対しての入学説明時のフォローアップ、入学後指導の強化が必要。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

・入学時に保護者への教育方針等の説明会を実施し浸透しているが、その後のコンクールや学校行事などにおいて年に数回の授業参観に留まっている。業界が求める人材を理解し、まずは教職員において浸透を継続していくべきである。

② 今後の改善方策

- ・理想像や行動指針を教職員に対しても可視化する必要性があり、年間の中で風化しないよう、教育に対してのモチベーションを持続する取り組みが必要である。また教職員の中での意識統一や、理解の均等化を図ったうえでの人材育成が必要である。
- ・就職指導の一環で業界のニーズなどを図る調査などを求人開拓の際に実施していく予定である。

③ 特記事項

昨年度に引き続き、株式会社プロントコーポレーションとの商品開発や他の企業との産学連携活動を授業の内外に取り入れ、業界との接点や習熟スキルの向上に力を入れて行きたい。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・情報発信を望む家庭も多いが相反して、放任的な家庭も多い。情報発信になるので送る方向性がよい。
- ・学校の理想像と企業の求める人材が解離しないように学校の計画を立てなければならない。
- ・他校の事例として、企業への求める人材像のヒアリング用紙などがある。
- ・可視化の仕方も掲げるだけでは意味がない。
- ・入社後、企業から親御さんに連絡を取ることも少なくない。
- ・学校の雰囲気惹かれて入学を決めた。親子ともに入学後の差異も感じなかった。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 (3) 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 (3) 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 (3) 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	(4) 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 (3) 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 (3) 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 (3) 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 (3) 2 1

① 課題

- ・担任や技術教員における、経験値の違いや、業務の理解度を改善する必要性がある。
- ・教育機関として一般社会のコンプライアンスに対する理解とリスクマネジメントが必要

② 今後の改善方策

- ・組織風土にとらわれない、姉妹校の業務・授業見学や各種教職員研修の場を設定していきたい。
- ・保護者への情報公開や保護者を巻き込んだ生徒指導の在り方を検討する必要がある。

③ 特記事項

- ・年間 3～4 回の全教職員を対象とした会議、カフェ専攻・パティシエ専攻の教職員ごとの教科会、毎週の担任会議、先輩教職員と後輩教職員の OJT トレーニング、定期の運営会議、任意の勉強会などを実施する。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・打ち合わせや会議が充実している印象を受ける。
- ・学校単位での企業コンプライアンスなど、情報の取り扱いに関しても、より向上したほうが良い。
- ・学校からの情報発信は、実家からの通学生はコミュニケーションはあるが、遠方からの生徒の保護者としては情報発信が少ないと感じる。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4) 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 (3) 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が	4 (3) 2 1

体系的に位置づけられているか				
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

・外部との接点や企業とのさらなる強化を図り、より現場で求められる人材育成を行うべきと感じている。既存の授業内の企業連携を含め、外部評価をいただく機会や生徒の成功体験を積める機会を精査しながら増やしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・公開授業を促進し、外部評価をいただく機会を増やす、またはこちらからの情報発信を実施する。
- ・学内でのスキルアップを目的とした各種研修会を実施する、若手教員育成の場を増やす。
- ・企業とのつながりを意識しながら、就職実績の活性化、しいては卒業までの学校生活において企業との接点を持てるよう開拓していく。
- ・実習授業の授業内容の一部を外部企業様に評価してもらう仕組みを推進する。

③ 特記事項

・既存の学内店舗実習における企業との連携、授業内評価に関しては、一定の教育効果・実績を上げている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・経験の違いや新人、若手育成に関しては、模範例を示し型にはめることも重要である。
- ・職責や達成度を理解し、取り組ませる仕組みを強化する。
- ・相対的に他者評価を実施している点は良い。
- ・教職員の一体化を図る上で、全体への強い統率と個に対してのメンタルサポートの必要性がある。
- ・在校当時に比べ行事がたくさんあってうらやましい。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	③	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	②	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

① 課題

- ・卒業後の支援や管理体制がまだまだ不十分であり、コミュニティーの確立が必要である。
- ・退学率をより下げることが必要

② 今後の改善方策

- ・卒業生の管理に関しては、担当者を配置し、同窓会の実施や情報発信・サポートを考えていく。
- ・保護者との接点を多く持ち、学校教育への協力体制を確立する。
- ・退学者の原因究明に努め、早期の段階での問題解決につなげる。
- ・若手教職員へのサポート体制を確立し、担任教育力の底上げを図る。
- ・先輩後輩のつながりやクラス内、学年間のつながりを強化した学校行事を検討して実施する。

③ 特記事項

- ・昨年度は、学年ごとのレクリエーション大会、クラスの団結する機会をつくり実施している。
- ・平成 27 年就職実績 97.1%(就職者/全在籍者)
- ・平成 27 年度退学率 7.1%(全学年含む)
→退学者の心理状況や原因を把握し、教務年間スケジュール上で改善を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・資格に関しては、必要性を伝える。(就職への有効性に限らず)
- ・担任の関与、資格教科担当との教科・連携を検討する
- ・卒業生に関しては、卒業後、母校への関心が少ないのでは、卒業生にメリットのあるコミュニティーやイベントできっかけを作るとよい。同窓会の組織化には段階が必要。
- ・卒業後必要となる、社会人スキルや福利厚生やお金に関しての授業などをやって欲しい。
- ・クラス内ではなく、強制的に縦横のコミュニティーがあれば、退学防止につながる。
- ・調理作業のスピードを強化してはどうか、焦って数多く作るというシチュエーションの対応力が必要。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2
中途退学者への支援体制はあるか	4	③	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・担任中心の指導の状況は一部改善されているが、教職員一丸となった指導が必要。
- ・高等学校との連携は、不足している。
- ・卒業生への支援体制を更に強化していく。

② 今後の改善方策

- ・生徒面談のつながりを強化し、個別相談の機会を増やしていく。
- ・学園内、姉妹校との連携や保護者との接点を増やし、高等学校との連携を図っていく。
- ・卒業生のための資格サポート研修なども実施できるよう、計画していく。

③ 特記事項

- ・AO入試等で早期入学を決めた生徒には、基礎的な学習の場やスキルアップの場を高校生に作っている。
- ・卒業生の交流の機会を年間スケジュールに実習済み。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業後、学校との関係が希薄化することは否めない。卒業生と学校とのつながりもであるが、卒業生同士がつながるコミュニティーを構築する必要性。
- ・学校が卒業生に離職するなという指導をしているため、学校に来づらい、思考を変えて離職の希望はさまざま、むしろ、転職やキャリアアップのサポート制度を構築してはいかがか。
- ・卒業後のフォローアップや相談できる環境があればぜひ戻りたい。
- ・企業情報や求人票には載らない情報を、聞ける仕組みがあればよかった。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・校舎の老朽化により一部、空調、換気扇、扉、実習室の水道などの故障がある。
- ・インターンシップ後に挫折をする生徒がいる。それらの生徒のサポート、目標再設定が必要。
- ・避難訓練、防災対策の再検討が必要。

② 今後の改善方策

- ・現状を考え、校舎の移築を視野に進める。
- ・老朽カ所に関しては、状況を確認し予算を確保して改築を行う。
- ・定期メンテナンスをしっかりと実施する。
- ・インターンシップの実習先とのやりとりを促進し関連の強化、実習生の状況把握の強化を把握する。
- ・防災マニュアルの再構築・訓練の実施が必要。

③ 特記事項

- ・校舎のメンテナンスの取引先を変更した。(対応スピードの向上、管理内容の向上の為)
- ・インターンシップの実習先に関しては、これまでの実績をもとにデータ整備が完了している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・校舎建物自体の老朽は否めないが、各部屋の施設は充実している。
- ・カフェや店舗の空間をプロデュースするスキルとしてBGM(音響や感性)の指導も必要。
- ・在学中やっておけばよかったと思うことが補える基礎を押さえる場があれば有り難い。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
入学選考は適正に行われているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- ・入学者の期待と実際とのギャップを感じる生徒がいる。
- ・留学生の募集方法や入国審査やビザについての教員基礎知識の向上が必要である。
- ・AO入試に対しての入学希望者、または高校進路担当者の理解を深める必要がある。

② 今後の改善方策

- ・留学生に対するツールや説明会、または教員勉強会を実施する。また、入学後のフォローや学生情報の把握に努める。

・卒業生や在校生の起用で卒業のイメージを伝えた上で入学してもらおう。

③ 特記事項

・姉妹校の日本語学校との連携、入学後の先輩留学生との交流会・勉強会の実績あり。

・入学前の事前オリエンテーション・保護者説明会を実施し、一定の実績あり。

・AO 入試制度に関しては、生徒と学校だけで可否に至ることはなく、事前に保護者、高校の担当者の承認を得ているかを本人に確認している。

・学納金に関しては、他校の学納金水準も参考に教育研究費、実習材料費、人件費、施設設備費などを勘案して決定している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・募集活動は結果が出ている。このまま引き続き尽力いただきたい。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

・社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更に業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。

・規模の増加に対応するための人材育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定に関して

・中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している。

・生徒募集は堅調に推移しており、予算も計画通りに推移し H25 年度に前倒しで完了している。

○予算及び収支計画の有効性、妥当性について

・予算、収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。

・予算執行状況が当初予算を乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。

・策定された原案については、理事長説明を経て理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・財務に関しては、問題なく実施していらっしゃる。特に意見はない。

※27 年度決算が終了していなかったため 26 年度財務諸表を参照して財務情報を共有した。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④ 3 2 1
自己評価結果を公開しているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・自己評価の実施を行っているが、外部評価を交えて検証もしているが、すべてを即実行できていない。
- ・法令順守に足しての意義浸透と整備が必要。

② 今後の改善方策

- ・自己評価を実施した上で学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会などを通し、外部評価も取り入れた上でより精度の高い状態とし、改善策も都度明確にした上で期日を決めて実行していく。
- ・学園内部別部門委員による教務監査を実施し、法令に沿った書類管理や運営状況に指導を受けている。

③ 特記事項

- ・27年度に開催した上記委員会にて、ご意見をいただき学内会議にてフィードバックを完了している。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・職員全体への周知も含め、認識や認識の場を設ける。
- ・書類の保管体制などは、さらに強化したほうが良い。
- ・

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・地域貢献の実施を今現在も行えているがさらなる強化を図りたい。
- ・来校型の活動を強化し、外部への貢献と同時に地域に理解を深めてもらう活動が必要。

② 今後の改善方策

- ・姉妹校との連携を促進し、参加家族のニーズを満たす活動を実施する。
- ・授業内にて準備対応ができるようシラバスを運用する。
- ・地域との関与、つながりをしっかりと築く。

③ 特記事項

- ・季節の催事や地域との連携を実施。
- ・地域のニーズに合わせた、貢献活動を実施。(誕生日ケーキの作成、オードブルの提供など)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・環境は準備できているが、機会により貢献度、達成度に差がある。さらに差がある。今後さらに精査したほう

が良い。

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	②
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	②	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	②	1

① 課題

- ・留学生の卒業後の進路、求人開拓が少ない。
- ・教職員の国際交流に対する知識不足である。
- ・留学生に対する受け入れ体制の柔軟性、環境整備が必要。

② 今後の改善方策

- ・企業様への留学生受験が可能かのヒアリングの徹底。
- ・留学に対する教職員の勉強会の実施。
- ・留学生奨学金、学生支援の斡旋を行う。

③ 特記事項

- ・姉妹校の日本語学校との連携で、交流会の実績あり。
- ・現在留学生の就職斡旋企業との連携を考えている。
- ・国内のマーケットに限らず、広く就職支援の環境を考えていく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ビザの関係で就労ビザが調理では許可されない。行政書士を踏まえ手続き費用を負担する企業も含め、開拓が必要。
- ・留学生への求人案内やキャリアワークを含め強化を図る。
- ・姉妹校として日本語学校が開校したこともあり、より一層の留学生のフォローを強化できるのではないか

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

① 退学率の低減の促進(1年数値目標8.0 %/2年数値目標 5.0 %)

合計6.5%以内に退学率をとどめる目標で取り組む。

担任と教科担当で早期の対策を考えて、退学の“きっかけを見逃さず”と一緒に実行していく。

② 「目指す人物育成像」を目指した、教育の徹底

技能と心の調和が教育理念であるが、

【技能】プロを目指す基本(技術・知識・意識)が身についた人物像

【心】(自ら)明るく挨拶・返事・気配り・清掃ができる人物像

と定めて、人材育成に努めていく。

③ 企業並びに地域連携を促進する

三方(生徒・教員・相手先)が活動目的をしっかりと理解した連携を行い、良い教育効果を残す。

④ 卒業生との繋がり強化していく

学校からの情報通信を送付し、同窓会を夏または秋休みに開催する。

⑤ 募集定員を満たすよう生徒募集に努める

入学定員となる 160 名が入学してくれる学校づくりと PR 活動をより早く、効果的に実施する。

同分野の他校と違うオリジナルの学校ブランドを確立する。